てるびっと

1996. 2.

No.2

京都府・海外研修ＫＹＯのあけぼの会

CONTENTS

ごあいさつ　会長　田中田鶴子　・・1
第４回世界女性会議参加団長　中畔都舎子

特　集　・・2
第４回世界女性会議・NGOフォーラムに参加して
柴田　美子・池内　知子・生田美和子
山下　弥生・渡辺　有・武田　公子

北京に吹いた風（ワークショップに参加して）
阿部　恭子　・・4

国際交流の大切さ（言葉によって国の壁をなくす）
ムズボンディワ・フンガイ・ニューマン　・・4

ねっとわーく
アメリカ研修に参加して
吉村むつ子・青木　妙子　・・5

総会報告とおしらせ　・・6

表題「てるびっと」は、京都府知事荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語（京都府友好国）「あけぼの」の意味です。

表紙絵について
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊。「木」北山杉。「鳥」オオミズナギドリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものです。

海外研修ＫＹＯのあけぼの会
会長　田　中　田鶴子

例年になく穏やかな三が日の1996年の年明けに会員の皆様にはお健やかに、すがすがしく、初春をお迎えになりましたことと思います。1995年を振り返ってみますと、国の内外ともに激動の年でありました。特に阪神・淡路大震災におきましては未曾有の出来事であり、私達に数多くの教訓が残されました。一日も早い復興を心からお祈り致しております。さて、95年度は皆様ご高承の「第４回国連世界女性会議」が開催されました。悠久4000年の歴史の足跡が残る隣国中国で政府間代表会議とNGOフォーラムがあり、NGOフォーラムで討論されたこと等を政府間代表会議に上程するものです。

京都府から京あけぼのフェスティバル実行委員会17加入団体から15名の方々が「NGOフォーラム」に参加され、私もその一員に加わり貴重な体験をさせていただきました。

「平等、開発、平和」をテーマとし、185ヶ国５万人の参加者であり陣慕華中国婦女連合会主席が「NGOフォーラムは建設的な成果を得るだろう」と。又、NGO発起人代表を務めたフィンランドのヘルビ・シビラさんは「女性は平等に向けて目覚ましく歩んできたが、今後は平和のためにさらに貢献すべきだ」と述べられ、会場を埋めつくした２万人余の世界の女性は総立ちとなり、歓声が北京の空にひびきわたりました。

北京宣言、行動綱領が採択され、女性の参加の促進（エンパワーメント）、性と生殖に関する健康と権利、雇用を含む女性の経済的独立、女性や少女に対するあらゆる差別撤廃など言葉の上ではすべて男女平等、女性の権利等誓いました。私達が地域社会や国、世界へ手を携えて行動する時が参りました。「12の重点課題領域」の綱領が女性にとって意義ある人権宣言となることを願っています。

団長　中　畔　都舎子

第４回世界女性会議が北京で開催され、京都府からはＫＹＯのあけぼのフェスティバル実行委員会の構成団体の中から選ばれた15名が代表団として参加することが出来ました。

世界女性会議はナイロビで開かれて以来10年ぶり、冷戦構造の終結をうけて、ナイロビ会議で採択された「２０００年に向けた女性のためのナイロビ将来戦略」を再検討し、21世紀への行動綱領づくりのための会議でした。1975年の国際婦人年以来、私達はＫＹＯのあけぼのプランを指針として、女性問題を基本的人権尊重の立場から学習し実践してきたことが、世界的視野で実証できたことの意義は大きかったと思います。

懐柔県でのワークショップでは、団員がそれぞれ班を編成し、ひとつでも多くのショップに参加し発言していこうとの熱意で動き廻りました。中でも環境問題のコーナーでは、日本の手づくり石けん運動が、男性とは別な働き方の模索の実例として共感をもって受け止められました。熱心な討議の行われている各会場に、私達は手づくりの“うちわ”と活動の“チラシ”を配りＰＲしました。どの会場も終始和やかに政治や文化を超え、熱い討議が展開されていました。これは今回の会議のごく一部ですが、今後私達団員が肌で感じ自分の眼で確かめた体験や感動を、府民の皆様方にどのように伝えていくかが帰国後の大きな課題でありました。それだけにこの度「てるびっと」が北京会議の特集号として発行されますのは意義のあることであり、心からの敬意を表したいと思います。

特集

第４回世界女性会議 … NGOフォーラムに参加して …

世界女性会議ＮＧＯフォーラムに参加させて頂き、自分の生き方を考え直す良い機会を与えて下さったことに感謝しております。

一つの地球の上に同じ人間でありながら、国が違い宗教が異なることにより、想像以上に多種多様の問題のあることを知りました。

開幕式でスパトラ・マスディット議長が演説の中で“あらゆる問題は女性問題である”と言われました。女性と貧困、教育、健康、暴力、戦争、経済、権力、意思決定、人権、メディア、環境、少女の問題など“あらゆる問題”は男女を問わず、すべての人々の問題であるはずです。しかしながら、弱者におしつけがちな現在の社会の在り方には、胸の痛む思いがします。

今回の北京会議のキーワードであり『北京宣言』にも、もりこまれている“エンパワーメント”は女性一人一人が、あらゆる場面で能力を養っていくことです。国によって、地域によって、個人によって、エンパワーメントの内容も変わってきますが、私は勇気をもって私達団員のキャッチフレーズである“みんなで幸せになろう”を目標に、男女共同参画社会に向けて役立つ地域活動を、していきたいと思っています。

（柴田　美子）

第４回世界女性会議に参加して痛感したことは、他国籍女性の力強さと豊かな日本社会において女性の地位が余りにも低いということだ。生活水準の高さでは世界第３位なのに、女性の社会参加度を見るとなんと第27位だ。私はこの結果にショックを受け、そしてこの会議に参加した５千人余りの日本人女性がこの現実をどう受け止めているのか疑問を感じた。確かに言葉の壁を感じつつも自分たちの思いをレポートにし世界中へ発信している人たちもいた。しかし、残念なことにマスコミが報じていたように観光旅行のオプションにすぎなかった人もいたことは否定できない。

私たちは、現地での体験を「良かった」と言う言葉で飾るのではなく、「まだまだ世界との距離は大きい」と反省として受け止めるべきではないだろうか。現実を直視し、男女でつくる社会を目指して男性をも巻き込んだ取組みが必要であると強く感じた。

（池内　知子）

戦後50年という節目の年にアジアではじめて、世界女性会議が北京で開催された。その会議に先だって開かれたＮＧＯフォーラムに京都の女性団体の方々と一緒に参加できたことは私にとって意義深いことであった。

慰安婦問題にも関心が薄く、アジアの内戦によって多くの女性が苦しい生活を余儀なくされてきたことにも、現在もなお、尾を引いている現状に目を向けていることなどの反省の機会にもなった。

今、私は現状認識をしっかりしながら、何をすべきか考えている。それにはお互いをよく知り、理解することから始めねばならない。

幸い京都には多くの国々からの女性が住んでいる。これらの女性たちと交流するとともにそれらの国々へも足を運んでその現状を直視したい。個々の女性の対話の中からお互いに学び合えるものは多いと信じるから。海外研修ＫＹＯのあけぼの会のみなさんと「アジアの女性のあけぼの」へ歩を進められたらと思う。

（生田美和子）

特集

第４回世界女性会議 … NGOフォーラムに参加して …

開会式の興奮もさめぬ31日、柳やポプラ並木の美しい懐柔県のフォーラム会場へ。そこには高齢化社会・政治参画・生殖や性暴力・環境・就労・被差別少数民族の問題など課題を抱えて集まった女性の熱気が溢れていた。

私はテント村で出合ったネパールの女性に関心を持った。貧困を克服した堂々たる彼女達の顔を瞼に浮かべながら資料を読み耽った。そこには女性が教育を受け自立せねば家庭も社会も豊かにならない「女が変われば社会が変わる」を実現した姿があった。環境・宗教・習慣等の制約をうけながら命を育み暮らしを守る女の誠実な強さが変革させたのだろう。帰国後、資料より活動参加や事務局紹介等ＮＧＯ国際ネットワークを確認した。そして世界の「愚大家幸福」には、ユネスコ活動や日本の国際協力隊等の民間協力の重要なこと世界の女性と連帯して地位向上を目指す意義の私の認識が深まったと思う。これからは子供達に自然界の営みを理解し、個々の命を大切にする優しさと厳しさを教えてゆこうと思っている。

（山下　弥生）

“エンパワーメント” —— 中国に渡って初めて耳にした言葉 ——

思いがけず、府から派遣される代表団の１人に加えていただき、第４回世界女性会議（ＮＧＯの部）に参加した。

北京に着くや否や、テレビから「平等・開発・平和」の文字が何度も放映され、女性会議一色という感じだった。189ヶ国、35,000人の女性が参加する会議を受け止める中国が、「婦女連合会」の指揮系統の下に一切の運営を行ったと聴く。

出発を前にした学習で、あれこれと不安な材料が頭をよぎり、構えて入国したが、開会の幕明けから感動の連続で、そんな不安は吹き飛んでしまった。

先ず、人・人・人の渦、大会運営の女性代表の舌を巻く挨拶、バイタリティー、繰り広げられるセレモニーのすごさ。中でも可愛い子供達（1,000人）の演技する整ったリズムと規律ある表現に、思わずこみ上げる胸の熱さを覚えた。ここまでに仕込んだ教育の力と、すべてを女性の手造りで築いたという力。これが“エンパワーメント”（継続の力）でなくて何だろう。

２日目の懐柔県分科会もすごかった。言葉は全くわからないが、女性の爆発するエネルギーを存分に味わった。

全世界の半分は女性である。このエネルギーを正しく伸びる力に変えて前進したい。まさに「エンパワーメント」で……。

（渡辺　　有）

“千里の道も一歩から”　この度、第４回世界女性会議に参加の機会を得、資料収集班の役目柄、各国の資料に目を通す事が出来た。世界中の資料に書かれた共通項目は、①女性問題は人権問題である、②女性差別がなくなって、初めて人権尊重の時代といえる、③男性との対決ではなく、パートナーシップを重視する、という主張であった。10年前のナイロビ会議を大きく上回った規模で開催され、すべてに盛り上がりを見せた会議、ワークショップであった。５ヵ月を経た今も尚、見聞きした頭書の項目が脳裏を離れず、私の生活上の大きな指針となっている。

最近健康を保つ為に歩こう会に参加する機会が増えた。将軍塚の頂きに立って、遥か西方を見やる時、北京の空のもと、ガートランドモンゲラ事務局長が「千里の道も一歩から」と訴えた言葉を想い出し、京都の街なみ煙る眼下の広がりの中、地道な女性会活動を通しての自分自身の生き方を、これからもしっかり見つめて行きたいと考える。

みんなで幸せになる為に、世界中の女性が手をつなごう。

（武田　公子）

北京に吹いた風

開会式の招待状のない私たちであったが何としても入りたい一心で、話合いで詰め寄り席こそなかったが参加することができた。

スタジアムを埋めつくした世界中の女性の熱気は帰国後も忘れることができない。

ＮＧＯフォーラム「テント18」で開かれた「女性と政治」を論じたワークショップでは、これからは世界の女性たちがもっと積極的に政治に参加し、女性自身の身分の確立を図るべきと感じた。

今回のフォーラムに参加して、一番目立って効果があったのは何と言っても、190カ国がポスターや資料類をパネルに貼る事だった。世界の女性の瞳はこのポスターに釘付けになり、「ビューティフル」「ワンダフル」の声が連発であった。持っていった130枚のポスターは全部出てしまった。

ＮＧＯフォーラム会場は２日目から大雨であったにもかかわらず、各国から熱心な意見が飛び交い、特に開催地中国の環境問題会場は超満員で入ることすら出来なかった。またあらゆる場所で自由に民芸品等を展示して即売し、旅費を捻出している国の女性たちもあった。

「平等・開発・平和」の世界女性会議のテーマを肌で感じようと、秋田を飛び立った私たちであったが、ワークショップを持ちフォーラムに参加して「エンパワーメント（力をつけること）」という言葉を認識できたように思います。

あすの秋田を創る生活協議会海外派遣団　阿部　恭子

国際交流の大切さ（言葉によって国の壁をなくす）

私は日本に在住して12年になります。生まれたのはアフリカのジンバブエです。1989年にはスイスの女性マリアン・リニガーと結婚し京都市から宮津市に変わりました。しかし京都市に教会を３ヶ所持っていますので京都と宮津を往復して１年７ヶ月になります。

私は、世界全部を我が国と見ています。それには言葉の壁を乗り越えることで、第一条件はその国の言葉を学ぶことだと思いました。

最初一年目でその国の言葉を学び、話すことができないと世界人として生きていくことはむずかしくなります。また限られた仲間になり自分が小さくなり、発展がありません。

私の心得ていることは、

1．日本語で挨拶する。その時は相手の顔を見ています。

2．言葉を短くすると必ずあやまちがあります。特に日本語は丁寧に話します。

3．各国の言葉のチャンネルを頭につくりました。例えばフランス語・日本語・中国語・英語等です。

今私は国際交流の大切さを感じ、世界の人たちと仲良くするために、言葉によって国の壁を取ることに努め、平和な地球をつくりたいと日本の皆さんと仲良くしています。

ムズボンディワ・フンガイ・ニューマン

アメリカ研修より

吉村　むつ子

アメリカ研修より、あっと言う間に一年余りが過ぎています。ＮＨＫテレビ「大地の子」を見て、一緒だった友の顔が、なつかしく思い出されたのです。と言うのは、長い空の旅の退屈しのぎに持って行った本が、山崎豊子の「大地の子」だったからです。まわし読み、感涙しながら読み終わり、二人で話し合ったのが昨日の様な気がします。

戦争さえ、なかったら、四人楽しく暮らせたはずの家族。戦争は、子供・老人・女性と弱者が一番の被害を受ける。「戦争はいやや」と二人で今の平和を喜び合いました。

同じ人間なのに、民族が違うだけでと、思う場面があります。みんなが仲良く、ずっと平和でありたいと願わずにはいられません。

カナダのファミリーサービスの所長の言葉が今も印象に残っています。

「お互いに、相手の民族の言葉・習慣・文化をしっかり理解しなければ、本当のボランティアは出来ない」という事です。

ファミリーサービスのボランティアは普通で二三ケ国語出来、二十ケ国語話せる人もいます。

国際交流と言われている今日、私達も他民族の方の交流に誤解が生じない様に、相手の文化をしっかり理解し、又、私達の習慣文化を相手に伝える努力も必要かと研修で感じた次第です。

（京都市地域女性連合会）

ねっとわーく

闘いつづける、アメリカ、カナダの女性たち

青木　妙子

ニューヨークで会った、ＮＯＷの幹部の「私たちのような活動家がいなければ社会を変えることは難しい」という発言は、印象深かった。

オクラホマ州政府副知事秘書に、お会いした時も「私は生まれた時から肌の色が黒いため今も差別を受けています。共に差別がなくなるまで闘いぬきましょう。」と熱っぽく語られた。

カナダオンタリオ州政府女性問題管理部では、性暴力やセクシュアル・ハラスメントなどの問題解決の対策として、テレビを利用して、一般市民に暴力を明らかにするための意識づけをして、黙認したり、泣き寝入りしたりせず、堂々と闘う姿勢を強く感じた。

これらのことは、経済的にも豊かで、女性に関する法制度も進み、女性問題の先進国といわれる、アメリカやカナダにあっても、未だ女性を取り巻く環境には厳しいものがあり、加えて、多民族国としての人種差別の問題も深刻であると言うことで、どの国にあっても、努力なくして、女性の地位も真の平等も得難いのだと、改めて感じさせられた。

（京都府女性の船同窓会）

総　会　報　告

▶平成６年度事業報告◀

４月28日	京都府女性団体懇話会　出席
４月	婦人週間「京都のつどい」参加
５月18日	総会準備　役員会
５月27日	総会　於ホテルニュー京都
６月～８月	あけぼの大学地域講座（城陽市）参加
９月～12月	あけぼの大学地域講座（城陽市）参加
10月29日～30日	全国都市緑化きょうとフェア　参加
10月	1994年度海外研修　出発
10月	京都府女性団体懇話会　参加
11月	機関紙発行（てるびっと　第１号）
１月～２月	あけぼの大学特別講座　参加
３月５日	ＫＹＯのあけぼのフェスティバル
３月	京都府女性団体懇話会　参加

▶平成７年度総会及び講演会◀

日時　５月19日㈮午後１時30分
会場　ウイングス京都２階セミナー室Ｂ

★総会次第　P.M.1：30～2：15

議題

1．開会
2．会長あいさつ
3．来賓あいさつ
4．議事
　① 平成６年度　事業報告
　② 平成６年度　収支決算報告
　③ 平成６年度　収支決算書監査報告
　④ 平成７年度　事業計画案
　⑤ 平成７年度　収支予算案
　⑥ 会則改正
　⑦ 役員改選
　⑧ 新入会員紹介（自己紹介）
　⑨ その他
5．閉会

ティータイム

★パネルディスカッション　P.M.２：30～４：30

テーマ　「海外研修で米国女性に学んだもの」
　　ー米国を知るー

パネラー　1994年海外研修参加者
　青木妙子氏
　岡本　薫氏
　吉村睦子氏

コーディネーター
　栗田澄子氏

▶平成７年度事業◀

４月	婦人週間　参加
５月	総会準備役員会
５月19日	役員会・総会（ウイングス京都）
８月29日～９月４日	第４回世界女性会議　於：北京市　２名参加　武田公子，山下弥生
10月１日	ＫＹＯのあけぼのフェスティバル
12月	「てるびっと」編集会議
１月	「てるびっと」編集会議
２月	「てるびっと」機関紙第２号発行
２月	役員会
３月	総会準備

おしらせ

京都府総合女性センター・４月オープン

この４月、京都府民総合交流プラザ内に、男女共同参画社会づくりの拠点として「京都府女性総合センター」が誕生します。

センターでは、女性の精神的自立を目指すフェミニスト・カウンセリングのほか、さまざまな女性の悩みに応える相談が行われたり、女性関係の図書、行政資料の閲覧、貸出が行われます。さらに、セミナー室や視聴覚研究室、調理実習室、茶室なども設けられ、学習活動の場が提供されます。また、ワーキングルームなども備えられ、団体・グループの相互交流やネットワークづくりの支援など、多彩な事業が展開されることになっています。

編集後記

皆様のおかげをもちまして「てるびっと」第２号を発行することができました。今回は95年に開催されました第４回世界女性会議に出席された方々から、それぞれの報告をしていただきました。

皆様にはご一読いただき、真の男女平等、女性の権利について考える時間を持っていただければ幸いです。

発行責任者
海外研修ＫＹＯのあけぼの会
役員一同